

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03 (5332) 3971 (代表)
FAX03 (5332) 3972
発行人・編集人
三木 勉

印刷部数11万1900部
(購読料は組合費のなかに含まれています)
(年間購読料 千八百円) 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

年金アンケート調査実施します

政府が年金抑制策を進める中、年金受給権の確保、公的年金制度の拡充をめざしてアンケートを実施します。仲間の年金受給の実態と要望を集約します。5月末締め切りです。ご協力ください。

東京土建は3月17日、18日の両日、「組織の拡大強化に全力を挙げて、過酷な建設労働の現状を打開し、賃金と仕事、暮らしの要求運動を前進させよう」をメインスローガンに、伊東市のホテル聚楽とホテル川良を会場に第72回定期大会を開催。代議員317人、代議員以外の参加者201人と、来賓28人の総計546人が参加しました。総合5カ年計画の最終年として、全支部の組織拡大目標達成と産業民主化の活動を進めるなどの方針を確認しました。

総合5カ年計画

最終年の重点を確認
東京土建 第72回 定期大会

公契約・現場対策確信に

後継者・事業所へ働きかけ

大会は議長団に成田洋一(江戸川)、小田澤陽一(清瀬久留米)、山本高明(中野)、書記長に牧岡善隆(狛江)の皆さんなど、大会諸役員を確認して始めました。冒頭、松丸委員長があいさつを受けました。(2・3面に掲載)

白滝書記長の基調報告では、昨年度の経過として、公契約条例運動の広がり、共同受注・集団施工体制の検討、現場の法令順守(アスベスト訴訟、外国人就労問題、建設キャリアアップシステム導入対策、分会・群の強化と事業所・後継者の課題、若年労働者の入職・育成と組織化などの運動

の到達を報告し、今年度の方針では、総合5カ年計画の到達点と最終年の重点を提案。また建設キャリアアップシステムの課題、憲法・消費税など国政の課題と各分野の方針を提起しました。基調報告を補強する支部経験報告として、豊島支部が群会議オルグ、後継者世代の運動参加、事業所の組織化について報告。西多摩支部が防災フェアとアスベスト被害者補償基金創設の陳情での自治体との関係強化を報告しました。また首都圏建設アスベスト訴訟原告共同代表の吉田重男さんが裁判勝利と被害者補償基金制度確立への協力を訴えました。

組合の影響力を広げ

組織活動を展開していく

2日目は午前専門部ごとに分科会を開催し、運動総括と経験を交流。方針を議論しました(4・7面に要旨掲載)。昼食休憩中に副委員長選挙

投票を実施、午後一番で建築カレッジの報告と訴えがありました。小林学校長が、カレッジ生が全建総連青年技能競技大会や技能五輪で受賞していることを報告。入学生を送ってほしいと訴え、青年技能競技大会金賞受賞の千葉幸大さん(小金井国分寺)と技能五輪銅賞受賞の高田慎太郎さん(清瀬久留米)があいさつしました。



技能五輪銅賞受賞の高田さん(左)

基調報告、規約改定、決算・会計監査報告、予算が採択され、討論のまとめを白滝書記長が行ないました。分散会では後継者の参加、事業所への働きかけ、群会議オルグの広がり、法定福利費確保と組織拡大は運動しているという意見などが出されたこと、分科

■50年前、子どもころに父に連れられて行ったメーデーで、あんぼはんたい」と叫んだことを覚えている。「あんぼ」が何を意味するのかわからず、過去には1952年の「血のメーデー事件」などの弾圧があったことも知らなかった。東京土建に入局した翌年からメーデーに参加するようになり、戦前に政府によって禁止されるなどのメーデーの苦難の歴史についても知るようになった。

■1989年は最後の統一メーデーだった。その翌年から、メーデーの変質・分裂に抗して闘うメーデーの歴史と伝統を守ろうと、三多摩でも実行委員会を結成して毎年5月1日にメーデーを開催してきた。

■先日開かれた「三多摩メーデー学習会」で、8時間労働制を求める労働者の国際連帯行動として5月1日にメーデーを開催してきた歴史を踏まえて、メーデーは5月1日に行なうことに意義があること、この日に新天皇の即位の儀式を行なうことにした安倍政権の狙いはいかなるのか考えようといった発言があった。この国の主権者は誰なのか。今年のメーデーも政治の転換をスローガンに掲げている。安倍政権としては煙たい話だろう。労働運動と国民の間を分断したい狙いが透けて見える。ひるむことなく参加者を増やしてメーデーを成功させたい。